

## 国民に反プーチン感情を駆り立てる（その3）

—プーチン大統領、高い支持率を誇るも - - - ?—

### 主要点

経済の苦境にもかかわらず、プーチン大統領の人気は、今なお高水準を保っている。

しかし、秘密にされてきた大統領一家の資産状況が白日の下にさらされつつあり、それが今後、プーチン大統領（政権）の足元をすくいかねない要因となる恐れがある。

#### 1 プーチンの高い人気

##### （1）プーチン大統領の続投について

全ロシア世論調査センターの3日の調査結果によると、プーチン大統領が2018年の大統領選挙への出馬を支持するとの回答が74%にも達した。

##### （2）信頼性について

信頼性においても57という票を獲得し、2位以下の要人（2位ラヴロフ、8）を圧倒している。

##### （3）市民が支持する政党について

政党支持ではプーチンを支持する与党“統一ロシア”が5割近くの支持を受けている。

調査結果からすると、本年末の議会選挙では、与党が5割（+）で、野党3割程度の議席配分となることを見込まれる。

#### 2 プーチン大統領の新たな弱点

##### （1）プーチン人気は高いが、反プーチン運動の芽はなくなっていない

先般のネムツォフ追悼記念式典では、2万人に近い市民が集まった。

プーチンは確かに高い信頼性を得ているが、その調査結果は1月以降、“信頼性は低下傾向にある”ことをも示している。市民感情の微妙な変化に注意しておきたい。

##### （2）清貧が売り物の大統領

“清貧”が売り物の大統領に対しても、非公式なソースから同大統領の2015年の純資産は1000億ドルにもなり、この時点で、世界で最も富む男性であるとの指摘がなされた。大統領周辺はそれを打ち消したが、大統領が“清貧だとはとても考えられない。

##### （3）大統領の新たな弱点

これまでの大統領への市民の高い評価は、大統領一家の富に関する情報が知られなかったことが幸いした一面もあるのではないか。大統領一家が市民とかけ離れた裕福な生活を送っているということが明らかになれば、しだいに経済苦境に喘ぐ市民の怨嗟は、すさまじいものになるだろう。同大統領と一家の“富に関わる問題”が、プーチン大統領の“新たに生じた弱点”の一つと言えるだろう。

ロシアは、世界の石油余りを受け、原油価格が下落する中、ウクライナ問題やシリア問題で西側からの制裁を受け、同国の経済状況は苦境に陥りつつある。それにもかかわらず、ウラジーミル・プーチン大統領の人気は、ロシア国内で今なお高水準を保っている。

しかし、これまで厳格に秘密にされ外部に窺い知れなかった大統領一家の状況が明らかになり、同大統領を初め一家の資産状況が白日の下にさらされると、それがプーチン大統領（政権）の足元をすくいかねない思わぬマイナス要因となる恐れがある。

## 1 プーチンの高い人気

### (1) プーチン大統領の続投について

確かにプーチン大統領の高い人気は、全ロシア世論調査センター（VTsIOM）の3日発表から結果からも実証された。

同調査センターは、2018年に予定されているロシア大統領選挙へのプーチン大統領の出馬に対し、支持するかどうかを質問した。その結果、続投を支持するという割合はなんと74%にも達している。その調査結果は（表1）の通りである。

（表1）プーチン大統領は、2018年の大統領選挙への出馬の可能性を排除していません。それで、あなたは個人的に、その選挙で指名を支持しますか、しませんか？（（回答はいずれか一つ）

質問事項	調査時期		
	2012年	2013年	2016年
勿論イエスです。支持します。	40%	51	74
勿論ノーです。支持しません。	39%	36	15
回答は難しいです。すべては状況次第です。	21%	13	11
	100%	100	100

注 ロシアの46地域の138か所で回答を求めた（以下、VTsIOMの調査は同条件）

## (2) 信頼性について

信頼性について調査した結果、プーチン大統領は信頼性でも他のロシアの要人を圧倒している（表2）（表3）

（表2）（質問）あなたが最も信頼している政治家等を5～6人選んでください。

<b>2016年</b>	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日
ウラジーミル・プーチン	62	62	58	<b>57</b>
セルゲイ・ラヴロフ	9	9	10	<b>8</b>
ドミトリ・メドヴェージェフ	8	8	8	<b>6</b>
ウラジーミル・ジリノフスキー	5	5	6	<b>6</b>
セルゲイ・ショイグ	6	6	7	<b>5</b>
ゲンナジ・ジュガーノフ	3	3	4	<b>4</b>
セルゲイ・ミロノフ	1	1	1	<b>1</b>
ミハイル・プロホロフ	0	0	0	<b>0</b>

(表3) (質問) あなたが最も信頼しない政治家等を5～6人選んでください。

2016年	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日
ウラジーミル・プーチン	2	3	2	<b>3</b>
セルゲイ・ラヴロフ	0	0	0	<b>0</b>
ドミトリ・メドヴェージェフ	9	6	8	<b>8</b>
ウラジーミル・ジリノフスキー	23	24	24	<b>24</b>
セルゲイ・ショイグ	0	0	0	<b>0</b>
ゲンナジ-4・ジュガーノフ	7	8	6	<b>7</b>
セルゲイ・ミロノフ	2	2	1	<b>2</b>
ミハイル・プロホロフ	0	1	0	<b>0</b>

(表2) からすると、調査回答者はプーチン大統領が2012年の大統領選で行った公約をほとんど果たしていると考えていることが分かる。その信頼性は回答者の3分の1を超えている。

(表3) のようにプーチン大統領は、公約を果たしていると思っていない人も

いるが、その人達でも（表1）と合わせて評価してみると、プーチンの大統領続投を支持したいと思う人が多いということが窺える。

### （3）市民が支持する政党について

このプーチン人気にあたかもあやかるかのように、政党支持ではプーチンを支持する与党が比較的人気が高い（表4）。

（表4）（質問）もし議会選挙が次の日曜日に行われるとすれば、あなたはどの政党に投票しますか？

2016年	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日
“統一ロシア”党	50,2	51,0	48,8	<b>48,4</b>
ロシア自由民主党（LDPR）	8,0	8,9	8,2	<b>9,3</b>
ロシア連邦共産党（KPRF）	9,2	7,5	8,9	<b>8,5</b>
公正なロシア党（Just Russia）	5,8	5,8	5,7	<b>5,9</b>
回答困難	7,1	6,8	7,3	<b>7,8</b>
投票に行きたくない	12,6	13,1	14,7	<b>13,9</b>

ロシアは本年末、議会選挙が行われるが、この調査結果からしても、与党“統一ロシア”党が優勢な状況であることは間違いなさそうだ。この状況であれば、議会は与党が5割（+）で、野党3割程度の議席配分となることが見込まれる。

ただ与党が圧倒的な過半数を獲得できるかどうかは微妙なところである。

## 2 プーチン大統領の新たな弱点

### (1) プーチン人気は高いが、反プーチン運動の芽はなくなっていない

VTsIOM の世論調査結果は、前に述べたようにプーチン人気の高さを示している。しかし、プーチン人気も絶対的なものではない。

2011 年末、モスクワでも大規模な反プーチン運動が起きた。そうした反プーチン運動の芽が全くなくなっているとは思われない。実際に先般はネムツオフ追悼記念式典が行われ、2 万人に近い多くの市民が集まっている。

また、プーチン大統領の信頼性についても、彼は確かに高い信頼性を得ているが、(表 2) を詳細にみても、その信頼性は 1 月以降、低下傾向にあることに気づく。この傾向のみで判断することはむしろ危険だが、それでもプーチンに対する市民感情は微妙に変化している点に注意しておきたい。

### (2) 清貧が売り物の大統領

かつての旧ソ連構成主体から独立した共和国の大統領は、自分への富の集中を図る長期独裁型の指導者が多い。プーチン大統領も長期独裁型と言えるかもしれないが、しかし他の指導者と異なり、同大統領だけは富とは無縁の“清貧”であるとの印象を強くロシア市民に与えてきた。

(プーチン大統領の厳命によるとみてよいが、) 同大統領一家の状況も最近まで国家機密に近い扱いを受け、外部にその状況が漏れてくることはなかった。プーチン大統領がいかに「富」に対する市民の反感が恐ろしいものであるかを、他国指導者の悲惨な事例から熟知しているからだろう。

しかしそれにもかかわらず、同大統領一家の状況は最近漏れ伝えられるようになった。そこから見えてきた大統領一家、とりわけ次女一家の生活ぶりは、経済苦境にあえぐ市民とはかけ離れ、想像を絶する大富豪ぶりだった。

プーチン大統領は相変わらず清貧ぶりをアピールしている。しかし、その大統領にしても、最近、非公式なソースから、プーチン大統領はガスピロムの株を 1.5% (名義を隠した同株は 5~7% になる) を所有しており、そのほか他の株も大規模に所有し、同大統領の 2015 年の純資産は実に 1000 億ドルにもなり、

この時点で、世界で最も富む男性であるとの指摘が出ている。

もちろんこうした情報は、その都度、大統領周辺は誤っていると強く打ち消している。

実際のところ、同大統領の個人資産はどれほどのものなのかは分からない。分かることは、彼が“清貧だとはとても考えられないことである。

### (3) 大統領の新たな弱点

前に述べたプーチンに対する市民の高い評価も、大統領一家の富に関する情報がこれまで市民に知られなかったことが幸いした側面もあるのではなかろうか？

プーチン大統領の外交政策は、市民の支持を受けていることが、調査結果からははっきりした。しかし、その支持は、外交政策でもたらされる経済苦境も、“我々と同様”に大統領も味わっているという、いわば仲間意識に支えられている側面があるのではないか。

“実は大統領一家は巨大な富を手中に収め、市民とはかけ離れた裕福な生活を送っている”ということが明らかになれば、市民からプーチン大統領に対する経済苦境の怨嗟の声は、すさまじいものになるだろう。市民のプーチン高評価も脆く崩れる可能性がある（ウクライナの元大統領ヴィークトル・ヤヌコーヴィチはまさに自分への富の集中化で市民の怨嗟をうけ、その背景下で失脚した）。

旧ソ連から独立した共和国の長期独裁政権の大統領が持つ共通の問題点（富の個人集中化）をプーチン大統領も次第に露呈し始めたようにも見えなくはない。

同大統領と一家の“富に関わる問題”が、プーチン大統領の“新たに生じた弱点”の一つと言えるだろう。